



相手の立場に 思いを寄せて

ひとさじの会 代表 高瀬顕功



世の中は「コロナ収束ムード」に包まれています。今年3月からマスクの着用が個人の判断にゆだねられ、5月より新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけも季節性インフルエンザなどと同じ5類になりました。

しかし、2類相当や5類といった分類は人為的に作られたもので、新型コロナウイルス自体の危険性は変わりません。高齢者、基礎疾患をお持ちの方などは、人流が増えることで、かえって心配事が増えてしまうのではないのでしょうか。それは路上にいる方も同じです。

世の中がかつての「日常」に戻ろうとする中、その日常に戻ることが現実的に難しい人もいます。日常に戻ることによって不安を感じる人もいます。一見すると、収束ムードに水を差す行動のように思えるかもしれませんが、そうした時こそ、相手の立場や考えに思いを寄せ、他者を理解しようとする心が必要です。

おにぎり通信

No. 08

ひとさじの会ニュースレター 2023

2023年6月10日

発行：社会慈業委員会（ひとさじの会）

〒111-0022 台東区清川 1-8-11 光照院内

hitosajinokai@gmail.com

http://hitosaji.jp

目次

- 1頁 相手の立場に思いを寄せて
- 2頁 令和4年度の活動報告
- 4頁 九州支部活動報告
- 5頁 滋賀支部活動報告・令和5年度の活動予定
りんりんふえす vol.10 開催レポート
- 6頁 山谷城北福祉センター前追悼供養
- 7頁 寄附御礼
- 8頁 決算報告 物資御礼

たとえば、海外では、日本より早くマスクの着用義務が解除され、入国時の検疫措置、ビザ免除渡航など、国をまたぐ移動についても早期に緩和、再開されました。厳しい制限が長く続く日本の対応に、批判や不満を訴える声もありましたが、多くの日本人は「制限は命を守るためには当然」と思ったのではないのでしょうか。

それぞれ置かれている立場が違うのですから、「当たり前」と思うことが食い違うのは、珍しいことではありません。しかし、多くの人が「当たり前」と思うことほど、その当たり前に苦しむ人がいるのではないかと注意を払うことが大切です。数の力で一方的に我慢を強いることのないように。

日常に戻りつつあるなかで、弊会もボランティアの受け入れを段階的に再開しはじめました。今はまだ、限られた配食コースで人数制限を設けながらの募集となっていますが、徐々に配食以外のボランティアも募集していきたいと考えています。みなさまとお会いできた際には、コロナ禍を経たどのような思いをお持ちになったのか、どんな気づきを得られたのか、ぜひお聞かせいただけましたら幸いです。

合掌

〇令和4年度の活動報告

吉水岳彦

〇炊き出し・夜回り支縁

- ・期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日
- ・開催日数：26回（原則として毎月第一・第三月曜日）
- ・配食数（お弁当）：5,034個
- ・マスク：約25,170枚（1人につき5枚ずつ配布）
- ・寝袋配布数：75個 他団体に61個寄附
- ・公衆浴場共通入浴券の数：1,305枚
10月は3枚ずつ229人 1月は3枚ずつ206人

令和4年度、コロナウイルスワクチン接種も希望する者に行き渡り、多くの人々がコロナ禍での生活様式に慣れたように感じられます。そのせいなのか、一時期、爆発的に感染者が増加したこともありました。わたしたちが接している路上に暮らす方の中にも、コロナウイルスに罹患して救急車で搬送後に亡くなられた人もいて、いつも声をかけていた公園の一角が静かになったことも淋しい事でした。一方で、令和5年の春を迎える頃から、マスクの着用義務がさまざまな場で緩和され、5月にはコロナウイルスの取り扱いもインフルエンザウイルスと同等になるとの報道もありました。経済的な問題を解消する必要からの政府の対応であろうと思いますが、その判断の基準があまり明確ではないようにも感じられます。ですので、いきなり気を緩め過ぎず、風邪や熱の症状を訴える路上の方々に出会った時に、その方がすみやかに医療

を受けられるようにするための対応や活動の流れなど、見直していかなばならないと考えています。

また、昨年の猛暑では、熱中症と思われる症状で倒れる寸前だったとのお話を路上に暮らす方からうかがったこともありました。隅田公園で寝ている方の一人は、熱中症で1週間ほど動けなくなっていたが、周囲に暮らす仲間たちが差し入れをしてくれたおかげで、何とか助かったと言い、上野公園では、精神的にも身体的にも限界で「他には何も望まない。だから、お願いだから眠らせてほしい」などと話した方もいらっしゃいました。日中の高温をデパートや駅の構内、街路樹の陰などでやり過ごし、夜には、まとわりつくような暑さの中、ネズミやゴキブリが走っている中で横たわる……といった状況では、いのちの危険もあります。弊会では猛暑の対応として、お弁当やマスク、経口補水ゼリー、塩分タブレットなどに加えて、スティックに入った粉状のポカリスエットを配布して歩きました。加えて、猛暑によって心身ともに疲弊した状態の方には、こちらからお願いしてホテル等で静養していただくこともありました。新年度もこうした猛暑の到来は想定されます。早めに準備して対応できるようにしておきたいと思います。

年末の寒さに対する対応については、昨年末に多くの方々よりご協力を賜ったおかげで、たくさん寝袋を購入し、お配りすることができました。寝袋も引き続き、必要な方にお届けしてまいります。



配食のお弁当に、御守り、入浴券、カイロ、チラシ



配食の道中 左は上野駅周辺 右は墨田川周辺

炊き出し・夜回り支縁活動で出会う路上に暮らす人たちの数は、コロナ禍が始まって以降、ずっと増加し続けています。配布する弁当が足りなくなり、急ぎよ追加の弁当を用意することもしばしばあるほどです。最近では、路上に暮らす人以外に、ネットカフェや生活保護世帯の方々も弁当をもとめて夜回りのルートで待っている方もいらっしゃいます。その他にも、活動日ではない時に、活動場所のお寺に食事や雇用等を求めて相談にお越しになる方もいらっしゃ



寝袋配布の道中 墨田川に架かる桜橋にて

います。対応ができない相談も多くありますが、既存の生活困窮者支援団体におつなぎすることで、どうかそれぞれの方の必要を充足してもらうための足掛かりを得ていただいているところです。

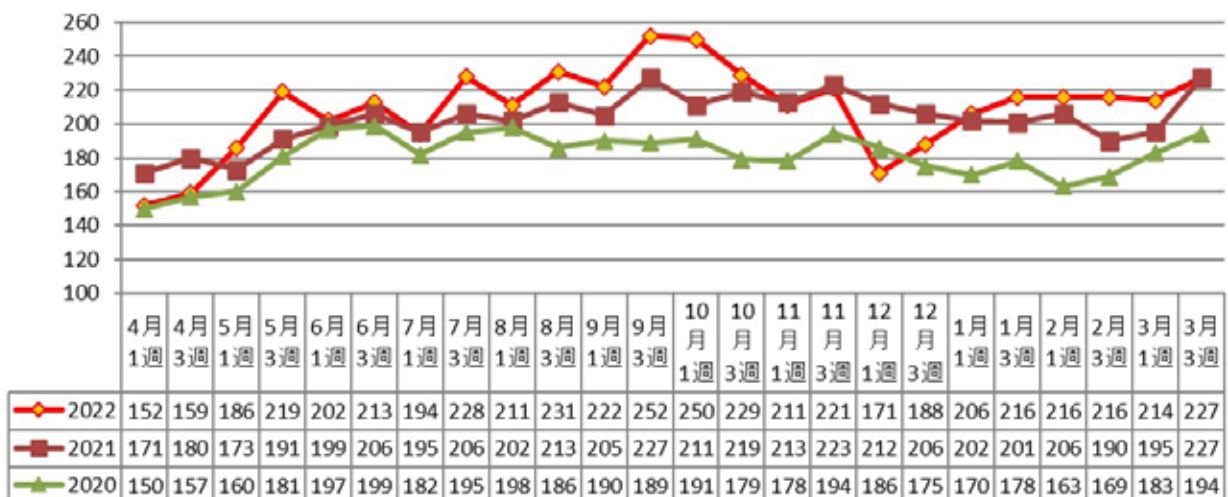
ただ、昨今は、観光が活発化する中で、保護するための宿泊先のホテルが確保しにくい難民等の相談もあり、日本では困難を抱えている人は増えているけれども、その方々を受け入れるような社会の仕組みや場所がまだまだ未整備であることを痛感させられます。弊会では、大きな支援はできないけれども、出会った人のいまの痛みや苦しさを聴かせていただき、できるかぎりその人にとって善き方向に進むためのご縁に結びつけてまいります。

○葬送支縁

- ・納骨供養6件（33柱）
- ・葬儀2件
- ・法事2件
- ・棚経2件
- ・墓参6件

令和4年度は、コロナ禍で路上に暮らすの方々のための大規模な夏祭りは行えなかったものの、新宿でも山谷でも、追悼法要が行われ、コロナ禍で喪った大切な人のいのちに思いを馳せるとともに、いまの

夜回り配食数(食)



つながりを再確認する時間を設ける団体が多かったと感じています。なかには、身寄りがない方々を受け入れている施設から要請があり、施設スタッフと利用者の双方を集めてのお別れ会を行うこともありました。コロナウイルスに感染した方は、救急搬送されたあと、そのまま火葬されて、お別れができないことも多くあります。施設のスタッフや利用者さんたちのなかには、直接お別れが言えなかった悔やみや、あらためて亡き人を悼みながら、感謝を捧げたいという方もおられました。そのように亡き大切な人を想う時間は、今の自分があるために大切な人たちとのつながりを実感させてくれるものであり、遺された者がいまを生きていく上で大切なものです。

年度末の3月のお彼岸には、光照院にお墓を設けている3つの団体が集まってお墓参りと納骨を行いました。各団体、それぞれに感染症には気をつけつつも、人数制限なく、みんなでの参拝でした。わいわいとお墓にやって来られる親しい人たちをご覧になる亡き方々も、さぞ嬉しかったことと思います。

新年度もご縁の団体のみなさまとともに、亡き大切な人とのつながりを感じていただけるような場をつむいで参ります。

○施米支縁

- ・ひとさじの会が受け取った施米：約3,189kg
- ・ひとさじの会が他に届けた施米：約2,680kg

令和4年度も、全国の浄土宗寺院からお米がひとさじの会に届けられました。また、この活動を理解して応援くださる全国の個人や団体、諸宗派の寺院様や檀信徒様よりお米を頂戴しています。昨年度よりもお米の寄付は増大し、より多くの困窮家庭や在日外国籍の方々等にお届けすることができました。また、インスタントラーメンやさまざまなレトルト食品、フルーツ等も届けられ、あむりたや台東区の子育てを支え合うネットワーク、在日ベトナム仏教信者会、ウクライナからの難民の方々等、他の団体にも活用させていただいています。団体の枠組みを超えて、困窮している方々に必要な物資が届けられることは誠に有難いことに思います。まだ

まだ経済的に厳しい状況にある日本において、このように食のご支縁をくださるみなさまに、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。

合掌

○九州支部の活動報告 —大分米一升運動開始10周年—

ひとさじの会九州支部長 今井英之

今年度、九州支部が行った「大分米一升運動」では、杵築長昌寺をはじめ、宇佐善光寺、国東蓮華寺、大分安養寺等の浄土宗寺院のご協力をいただき、全部で740kgの浄米を集めました。その浄米は、生活困窮者支援を行うグリーンコープやフードバンク大分、NPO法人寺子屋カフェくまもとの他、大分市内で子ども支援を行う中央町自治会、西新町子ども食堂、金池子ども広場等にお届けしました。大分県内の諸寺院の協力のおかげで、寺院が建っているそれぞれの地区で困っている子どもたちの支援等にも浄米が行き渡るようになったことは本当にありがたいことだと感じます。

また、熊本地震から数年が経過しましたが、いまだに支援活動を通じてつながりがあり、貧困や子育ての問題を抱えている世帯への介入や支援の方法などにおいて、熊本の活動者から多くのことを学ばせてもらっています。今後もいのちを育む上で大切なお米をご縁に、互いに支え合ってゆけるような良い関係を築いていきたいと願っています。

最後に、今年度は大分市安養寺の阿部昌道上人



大分米一升運動にて集まった浄米

が、ひとさじの会九州支部のメンバーになってくださいました。支部のメンバーや協力寺院の皆様と共に、少しでも困っている方々のお力になれるように精進してまいります。 合掌

○滋賀支部活動報告

ひとさじの会滋賀支部長
フードバンクびわ湖理事長
曾田俊弘

令和4年度は、滋賀教区浄土宗青年会のおうみ米一升運動のサポートとフードバンクびわ湖の活動に専念しました。



11月に実施したおうみ米一升運動には、浄土宗滋賀教区のご寺院・檀信徒様より、6.8トンもの浄米のご喜捨をいただき、随喜の涙に咽びました。

その尊い善意の結晶の内、半分は県内各地の淡海子ども食堂にお福分けさせていただきました。

あと半分は、フードバンクびわ湖が、フードバンtrieb開催、連携諸団体へのお福分け、宅配を通して、食料支援を必要とされている方々にお届けしました。

おかげさまで、ひとさじの会の施米支縁活動モデルの具現化を目指しておうみ米一升運動を開始してから14年が経過しました。

まさか米一升運動がこれほど長く持続し、毎年集荷量が5トンを超える県下最大・全国有数のフードドライブ（期間限定実施のものに限る）に成長を遂げ、フードバンクの後方支援のみならず被災地支援・子ども食堂支援まで活動が進展するとは予想だにしませんでした。

今後も、これまで活動を支えて下さった方々へのご恩と感謝を忘れず、米一升運動のより一層の充実・発展のために、滋賀浄青の賛助会員の立場から微力を尽くす所存です。

○令和5年度の活動予定

炊き出し・夜回り支縁は、例年通り、月2回（原則第一・第三月曜日）行います。開催予定日は下記の通りです。

令和5年 4/3、4/17、5/1、5/15、
6/5、6/19、7/3、7/17、8/7、8/
21、9/4、9/18、10/2、10/16、
11/6、11/20、12/11、12/25
令和6年 1/8、1/22、2/5、2/
19、3/4、3/25

※今年度はボランティアの募集やお寺での炊き出しの再開に向けて準備を進めてまいります。また、令和5年12月と令和6年1月の炊き出しの日程については、お寺の行事や山谷の越冬活動との重なりをさせて、第2と第4月曜日に変更しました。

○りんりんふえす vol.10 開催レポート

ひとさじの会理事 工藤量導

2023年3月5日、梅窓院・祖師堂にて「りんりんふえす vol.10」という路上生活者が生活を立て直すための生業となる雑誌ビッグイシュー（販売価格450円のうち230円が販売者の収入となる）を応援する音楽イベントが催されました。シンガーソングライターの寺尾紗穂さんを発起人として、ひとさじの会ならびに貧困支援に関わる団体であるビッグイシュー日本、ビッグイシュー基金、つくろい東京ファンド、山友会などが協力して2011年以来、毎年イベントを続けてきました（2019～2022年はコロナ禍のため中止・延期）。

りんりんふえすの名称は「隣の人と輪になろう」という「隣」「輪」の音をかけたもので、老若男女300人以上の来場者が音楽を聴き、座談会で貧困問題について学び、炊き出しやコーヒーを味わう、にぎやかな催しに成長しました。前回2018年の開催時と同様に、今回も在日ベトナム



りんりんふえすの様子

ム仏教・随縁禅室の皆さんが特製フォーとベトナム揚げ春巻きを炊き出しとしておふるまいくださり、大変に好評でした（投げ銭として頂戴した募金は一部を東日本大震災で被災した石巻の地につくられる大佛建立の費用に、残りをりんじんハウスの支援に充てることになりました）。

音楽部門はおなじみのイベント発起人の寺尾紗穂さん、路上生活者のダンスチームの新人Hソケリッサをはじめとする計6組が出演しました。彩り豊かな音楽を奏でる「ゆうらん船」さん、味わい深く心地よい歌声を披露した「butaji」さん、音楽・照明・演技を一人で操り物語の世界へ引き込む「川村^{こうへいさい}亘平齋」さんの影絵、トリは唯一無二の歌声と世界観を持つ「浜田真理子」さんと宮古島出身のサックスプレイヤーの「Marino」さんのコラボ。いずれも、区切りとなる第10回目にふさわしく、聴く人たちを、誰も拒むことのないやさしい居場所へといざなってくれるような穏やかで力強い演奏でした。

座談会のテーマは「隣^{とな}る人と輪になって」。進行役を吉水岳彦事務局長がつとめ、パネラーとして寺尾紗穂さん、稲葉剛さん（つくろい東京ファン代表理事）、ゲストパネラーとしてタム・チーさん（在日ベトナム仏教信者会代表理事）が登場し、ルボ・ジャンさん（山友会代表）がビデオ出演されました。

ジャンさんは山友会の活動を振り返り、自分自身が来日された当初は孤独や馴染むまでの苦労を重ねたこと、そのような経験も手伝ってホームレスのおじさんたちに親近感を感じるようになり、

それが山友会の活動への道筋になっていったことをお話しされました。寺尾紗穂さんはりんりんふえすのきっかけでもある、学生時代に山谷で出会った坂本久治さんとの思い出を語りました。坂本さんは現場で一緒だったアジアの労働者から言葉を覚えてコミュニケーションをとる、いわば国際派の日雇い労働者。絵も得意で、生前に残されたたくさんの作品が会場に展示されました。稲葉さんも坂本さんのエピソードとともに、新宿駅西口地下ダンボール村（1993～1998年）およびその後の路上生活者支援活動について、さらに難民・仮放免者をホームレスにさせないための「りんじんハウス」の活動について紹介しました。タムチーさんはベトナム人の技能実習生問題の実情について、さらにコロナ禍における支援活動（食料、相談、葬送、住居、帰国）について語られ、ベトナム人も日本人も同じように働いて暮らせるようになって欲しい、それはブッダの願い（人々の平和と平等）であるとお話しされました。

座談会の終わりには、足掛け10年以上にわたるイベント開催の間に亡くなられた多くの方々（日本で亡くなられた多くの外国籍の方々、東日本大震災などの天災で亡くなられたの方々、ウクライナやシリアなどの紛争で亡くなられたの方々、りんりんふえすの過去出演者＝ムッシュかまやつさん、加川良さん、ガンジー西垣さん、新井賢司さん）のために、会場の皆さんと共に祖師堂・法然上人の前で「祈りの時間」が設けられました。

今回が青山梅窓院を会場とするイベントとしては、区切りとなるラスト10回目でした。どうなるか未定ですが、2020年にコロナ禍のために延期となってしまった山谷での野外開催が実行できないかどうか現在も模索中です。乞うご期待ください。合掌

○「山谷城北福祉センター前追悼供養」

8月の第1週目の土日は、年に一度、路上生活者も生活保護者も会社員も僧侶も関係なく楽しい時間を過ごす山谷夏祭りが行われていまし

た。ひとさじの会も、結成して2年目くらいから参加させていただいて、本当に良い時間を過ごさせてもらってきました。日頃の夜回りで出会っているおじさんたちと、おにぎりやお弁当を手渡すときの目線とは異なり、楽しい時間を共に過ごすなかで、いろんな思いを聴かせていただけるありがたい場でした。でも、コロナ禍のため、この2年間は開催ができませんでした。昨年の夏は、「今年こそ……」と、誰もが期待を寄せていましたが、結局、コロナウイルス感染拡大の第7波と重なり、夏祭りは行えませんでした。

ところが、せめて山谷労働者福祉会館や山谷争議団をはじめ、山谷に縁のあった方々の追悼供養は行おうとの声が上がリ、急きょ、城北福祉センター前に祭壇が設けられて、法要を行うことになったのです。当初は30人くらいしか来ないだろうと聞いていましたが、実際には100人を超える方がお集まりになり、亡き人のためにお焼香やお念佛を称えるなど、供養に参加してくださいました。法要には、山谷で長年活動している「ほしのいえ」の代表の中村シスターもご一緒くださり、さまざまな人のそれぞれの祈りがささげられました。

この時、いつもの追悼供養と異なっていたのは、山谷の労働者のために活躍した活動家の方々

の、一人一人のエピソードが紹介された事でした。今から数十年前の山谷の一角で、ベトナム戦争に日本が加担する事を憂い、声を上げていた方がいた事や、ヤクザの金町一家との抗争で殺された方々など、知っているようで知らない地元の歴史を教えてもらうことにもなりました。

弔うことを通じて、そこに集うご縁の方々から、その土地に生きた人たちの困難や苦勞、努力といったものが伝わってきて、生きた歴史を学ばせてもらうことにもなったのです。山谷に受け継がれてきた平等への想いを、弊会でも大切にしたいと感じた追悼供養の時間になりました。

合掌



追悼供養の様子

○令和4年度 寄附 寺院・団体（順不同敬称略）

（公財）浄土宗ともいき財団、（一財）太田慈光会、LGBTハウジングファーストを考える会東京、淑徳与野中学・高等学校、日本ロゴセラピスト協会、マイトリーヘルプサービス、水戸基督友会、（一社）ハーモニー、成願寺写経会、（株）アンカレッジ、綾瀬春日ロータリークラブ、（公財）国際宗教研究所、在日ベトナム仏教信者会、ベトナム仏教随縁禅室、（一社）リエゾンかつしか、ファッションイト（株）、訪問看護ステーションコスモス、九品寺（大和町）、照光院（江東区）、安楽寺（野洲市）、最上寺（台東区）、徳雲寺（西尾市）、実性寺（足立区）、西門寺（足立区）、西福寺（厚木市）、浄正寺（荒川区）、地藏寺（有田市）、西光寺（石巻市）、北泉岳寺（砂川市）、安養寺（いわき市）、心光寺（いわき市）、浄延寺（いわき市）、菩提院（いわき市）、光琳寺（宇都宮市）、泉福寺（江戸川区）、安養寺（大分市）、真勝院（葛飾区）、雲龍寺（鹿沼市）、大長寺（鎌倉市）、大蓮寺（川崎市）、妙長寺（河内長野市）、正光寺（北区）、福泉寺（甲賀市）、正覚院（江東区）、心行寺（江東区）、本誓寺（江東区）、圓通寺（江東区）、得生寺（桜川市）、一向寺（佐野市）、大翁寺（境町）、戒法寺（品川区）、長安寺（渋谷区）、大善寺（島田市）、回向院（墨田区）、愚鈍院（仙台市）、大徳寺（仙台市）、成覺寺（仙台市）、常念寺（仙台市）、源空寺（台東区）、無能寺（桑折町）、成願寺（田村市）、専念寺（鶴岡市）、來運寺（天童市）、寶運寺（栃木市）、龍華寺（鳥栖市）、長安寺（直方市）、十念寺（長野市）、法真寺（那須塩原市）、宝幢寺（七尾市）、法蔵寺（日光市）、極楽寺（八王子市）、來迎寺（八戸市）、昌善寺（東近江市）、妙慶院（広島市）、円宗寺（福岡市）、蓮宝寺（府中市）、生西寺（文京区）、一行院（文京区）、實相寺（本庄市）、善光寺（松戸市）、光明寺（三木市）、天長寺（島本町）、法城寺（碧南市）、最勝院（港区）、浄土寺（港区）、妙定院（港区）、長伝寺（港区）、白雄寺（村山市）、浄念寺（村上市）、寶隆寺（余市町）、観音寺（横浜市）、西蓮寺（米沢市）、妙雲寺（益田市）、浄念寺（桶川市）、往生寺（栗原市）、正覚寺（江津市）、蓮華寺（国東市）、向谷寺（山形市）、大王寺（春日部市）、大念寺（大槌町）、慈恩寺（仙台市）、真行院（台東区）、常行院（松戸市）、慶岸寺（横浜市）、法學寺（長野市）、極楽寺（福山市）、阿弥陀寺（青森市）、弘経寺（結城市）、正応寺（横浜市）、大蔵寺（千葉市）、西念寺（二本松市）、龍雲寺（札幌市）、慈恩寺（仙台市）、玄向寺（松本市）、常福寺（北九州市）、眞福寺（飯塚市）、玉圓寺（堺市）、蓮華寺（国東市）、長昌寺（杵築市）、法源寺（川棚町）、安養寺（江戸川区）、光専寺（武蔵野市）、法源寺（富士市） この他、個人様からのご寄付も頂戴し、ひとなべ会員9人、ひとほち会員116人、ひとさじ会員84人となりました。ご支援下さったすべての方に深く感謝を申し上げます。

合掌

令和4年度決算報告

自 令和4年4月01日
至 令和5年3月31日
(単位:円)

収入の部

科目	項目	細目	決算額	予算額	差異	備考
賛助金	会費		3,613,458	2,000,000	1,613,458	会員の賛助金
	助成金		0	480,000	▲ 480,000	(公財)浄土宗ともいき財団助成金(48万円)※書類不備の為、次年度助成予定
	その他の寄付		1,754,393	400,000	1,354,393	(一財)太田慈光会(40万円)、寝袋支援寄付
	合計		5,367,851	2,880,000	2,487,851	
その他	雑収入		14	10,000	▲ 9,986	銀行口座利息
	繰越金		7,519,419	7,519,419	0	前年度繰越金
	合計		7,519,433	7,529,419	▲ 9,986	
総計		12,887,284	10,409,419	2,477,865		

支出の部

科目	項目	細目	決算額	予算額	差異	備考
事業費	炊き出し費	食材	1,668,407			お弁当(1,537,659円)、アメ類(128,048円)
		医薬品	128,678			医薬品
		配布物	1,273,540			入浴券(292,500円)、寝袋(617,322円)、下着類(227,907円)、カイロ等
		消耗品等	93,834			ポリ袋等
		一時保護	12,800			一時保護した方への交通費・宿泊費・食費等
	合計		3,177,259	2,700,000	477,259	
	研修会費		33,411	150,000	▲ 116,589	勉強会講師謝礼
	活動推進費		268,692	300,000	▲ 31,308	ホームページ、おにぎり通信、出版支援金(15万円)等
	設備費		600,000	700,000	▲ 100,000	炊き出し会場賃貸費、光照院へ消耗品費
	提携事業費		149,940	300,000	▲ 150,060	折りの道助成金(10万円)、りんりんふえす
交通費補助費		45,280	300,000	▲ 254,720	夜回り時の交通費	
特定活動費		90,880	1,500,000	▲ 1,409,120	地域ケア連携をすすめる会	
合計		4,365,462	5,950,000	▲ 1,584,538		
管理費	人件費		525,310	650,000	▲ 124,690	事務員手当(月50,000円+交通費)9、10月休職の為10ヶ月分
	事務費		84,480	220,000	▲ 135,520	事務用品、会計庶務費
	通信費		73,624	100,000	▲ 26,376	郵送代、電話代、ZOOM等
	会議費		0	100,000	▲ 100,000	理事会会議費等
	雑費		31,165	50,000	▲ 18,835	手数料
合計		714,579	1,120,000	▲ 405,421		
予備費		241,494	3,339,419	▲ 3,097,925	抗原検査キット	
総計		5,321,535	10,409,419	▲ 5,087,884		

総収入	12,887,284
総支出	5,321,535
次年度繰越金	7,565,749

○令和4年度 浄米・物資寄付並びに活動協力 寺院・団体（順不同敬称略）

しろつめ草、相模如来光明会、(株)フジタ精米人、東京慈恵会医科大学、タケノ文具、(株)小林石材工業、HOOO CAFE、NPO ピックイシュー基金、(公財)仏教伝道協会、NPO きぼうのいえ、カミツレ研究所、(一社)リヴオン、回向院(墨田区)、大蔵寺(千葉市)、ベトナム仏教大恩寺(本庄市)、東京佛光山寺(板橋区)、光照院(江東区)、泉水寺(富津市)、玄向寺(松本市)、良心寺(横須賀市)、正定寺(古河市)、大林寺(稚内市)、正福寺(つくば市)、西光寺(古河市)、照光寺(栃木市)、大雲寺(江戸川区)、乗蓮寺(板橋区)、荘厳寺(取手市)、天然寺(木島平村)、天然寺(松崎町)、愛染寺(四街道市)、浄土寺(港区)、法源寺(富士市)、浄土寺(香取市)その他、多くの個人様からのご寄付も頂戴いたしました。ご支援下さったすべての方々に深く感謝を申し上げます。

ひとさじの会代表 高瀬顕功 拝